

岐阜県嚥下障害研究会

モグモグ通信

No. 29 (2017. 1 発行)

今年の学術講演会は、我が国の嚥下リハビリの第1人者である藤島一郎先生をお迎えすることになりました
えう ご期待!



発行所:岐阜県嚥下障害研究会
事務局:土岐市立総合病院 ST 室

研究会は地味だが役に立つ



朝日大学歯学部
口腔病態医療学講座
障害者歯科学分野

准教授
安田 順一 (歯科医師)

岐阜県嚥下障害研究会が発足したのは 20 年前(1998)です。日本摂食嚥下リハビリテーション学会(嚥下リハ学会)が 1994 年設立なので、全国的にもずいぶん早い時期に立ち上った嚥下研究会です。ちなみに、認定資格であった言語聴覚士が、国家資格として誕生したのは 1999 年、介護保険が発足したのは 2000 年です。それまでも、嚥下指導や言語指導、栄養サポートは行われていましたが、ここ 20 年の間に学際的に集約され急速に発展した領域です。学会会員数が 11,000 人規模に発展するとは、誰も想像していなかったと思います。これは他の医学系学会に引けをとらない規模で、日本リハビリテーション学会の会員数とほぼ同じです。

私が、初めて参加した研究会は、2001 年 12 月に高山で開催された第 4 回岐阜県嚥下障害研究会でした。特別講師は、「食べる機能の障害」の著者である金子芳洋先生(昭和大学客員教授)でした。前日の懇親会にも参加された金子先生に嚥下音について尋ねたところ、私の知識の無さにあきれられ、まずは正常を知ることが大事であるとハッパをかけられたことを思い出します。本研究会には、医療職や介護職や教育関係者など多様な職種の参加があり、あらためて、嚥下リハビリテーションには多職種協働で行われており、リハ

ビリテーションが医療だけでなく、生活に根付いた学問として重要であることを実感した研究会でした。本研究会は 4 年毎に各地区開催のため、2017 年の本研究会は、高山市の大埜間(おおのま)先生が大会長であり、参加を楽しみにしております。

朝日大学で豊島義哉先生を講師とし嚥下勉強会が開かれたのは 2002 年でした。同年 9 月に宇都宮市で開催された第 8 回嚥下リハ学会に参加し、準備期不全の高齢者に対して歯科治療を行うことで摂食・嚥下機能の改善について症例発表しました。参加者も言語聴覚士、作業療養士、理学療法士、医師、看護師、歯科医師、歯科衛生士、栄養士、その他、学生も含め多職種にわたり、それぞれの視点での発表は興味深いものでした。昨年の摂食嚥下リハ学会は新潟市で開催され、本研究会のアンケート報告を本研究会理事の二村洋代先生が発表されました。私も障害高齢者の嚥下機能評価と対応について症例発表しました。参加者も 6000 人を超え、人気のある講演会場では立ち見ができるほどの大盛況でした。第 23 回嚥下リハ学会は、2017 年 9 月 15 日(金)、16 日(土)に千葉市の幕張メッセで開催されます。

朝日大学附属病院では、1996 年から障がい者歯科(玄 教授)と歯科放射線(勝又 教授)が中心となって、嚥下指導と VE・VF が開始されています。2016 年 4 月からは附属病院内に包括支援歯科医療センターが発足し、摂食嚥下リハビリテーションも組み込まれました。今後も、VE と VF を中心とした嚥下評価と指導、要支援者への口腔ケアや歯科治療について、私自身が歯科医師として地域医療に貢献するだけでなく、医局員や学生の教育にあたっていきたいと思います。





第1回 研修会レポート

「嚥下調整食の現状と課題」

特定医療法人録三会 太田病院
栄養科

管理栄養士 須崎文則

「何だこのおばちゃん!？」(失礼) パワフルな講師の先生に圧倒。みんなの森ぎふメディアコスモスで開催された第1回研修会に参加させて頂きました。講師は徳永佐枝子先生。栄養士なら誰でも「うんうん! そうそう!」とついうなずいてしまうような内容で、元気でパワフルな圧倒され続けの2時間でした。

最初に取り組むべき課題として問題提議されたのは「嚥下調整食の品質管理」について。「自分の病院や施設で嚥下調整食の品質管理ができていると胸を張って言えますか?」の問いに対し、下を向いてしまう自分がいました。まさに当院が取り組むべき課題。核心を突かれました……。

安定して個々の患者様に応じた狙い通りの嚥下調整食を提供するために、食品選択から栄養管理、献立作成、作業指示書のマニュアル化まで課題山積状態です。出来てない事ばかりで、なにかから手をつけていいやら。恵まれた事に当院では嚥下調整食の生産管理に適している真空調理の設備も整っているのです、取りあえず、すぐにできる事からコツコツと始めてようと思いました。

続いては、多職種共同で進める改善活動の紹介。PDCA を活用し、多職種とのミーティングを定期的に関き嚥下についての勉強会や新メニューの開発など、栄養科内だけでなく様々な分野からの意見を取り入れることで、より Quality の高い食事の提供が可能であると改めて感じる事が出来ました。

日時：平成28年7月3日(日) 13時~16時
会場：みんなの森 ぎふメディアコスモス 1階
かんがえるスタジオ

情報提供：株式会社大塚製薬工場

ティアンドケー株式会社

講演：嚥下調整食を支えるスタッフに伝えたいコツ

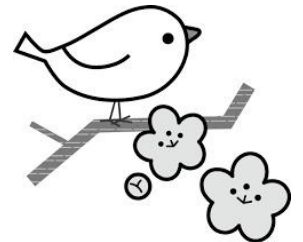
講師：徳永佐枝子先生

東海学園大学

健康栄養学部管理栄養学科 准教授

また、電子カルテ上から院内の食事形態分類表やとろみのつけ方などの指導媒体を全病棟で共有して、いつでも印刷して配布できる状態になっていることなど、うちの病院でもパクれるものはパクって早速取り入れようと、思いながら聞かせて頂いておりました。

結局のところ、自分自身何も実行出来ていない事を痛感させられた研修会となりましたが、これを良い機会に成果の出せる食事提供体制作りに取り組んでいこうと、気持ちを新たにしました。ありがとうございました。



会費納入のお願い

納入金額：年会費 1,000 円

未納者は宛名ラベルの西暦横に未と記しています。

振込先：郵便振替 加入者 岐阜県嚥下障害研究会
口座番号 00890-3-114142

- * 通信欄に「〇〇年度分会費」とご記入願います。
- * “振替用紙の控え”をもって 会員証とします。
- * **2年間会費を滞納すると、退会となります。**

(注) 未入会者は 入会申込み手続きが 別途必要!
問い合わせ：土岐市立総合病院リハビリテーション部
言語聴覚士 加藤まで

メール または FAX 0572-54-8488

Mail: gifukenengesyougaikenkyukai@yahoo.co.jp

第9回 小児摂食指導講習会 レポート

「何度聞いても新しく奥深い世界」

文責 関市中央親子教室
川嶋充園

5年前にこの研究会で山川先生はじめ皆様にご指導いただきTちゃんの3か月に渡る実践に取り組み、“様々な発達が絡み合わないと食事は上達しない”と学びました。職員は随分入れ替わりましたが、今回も講習会への関心は高く、経験年数(1~30年)も資格(ST、保育士、教員)もバラバラの11人が参加しました。すぐに活用できる実技演習、他施設多職種の方と交流できるグループワーク、経年変化のわかる長いスパンでの事例など豊富な内容でした。この研修を咀嚼し、職員同士で実習を行いながら、職場全体で理解を深めていきたいと思えます。

(参加職員の感想)

- ・講師の先生方のご本人やご家族への温かい思いを感じた。家族の状況を聞く中で無理なく継続できる援助方法を考えることや、やっとここまでたどり着いたという思いを聞くことの大切さを感じ、おごらず、謙虚に寄り添って一緒に考えたい。
- ・食事は人とのコミュニケーションの場であり、口腔機能の発達や、認知・コミュニケーションの発達、社会性の発達の間であると感じた。介護を受ける人が安心して食べられるよう信頼関係を築きたい。
- ・任意研修は「楽しい食事とは？」という概念を考えることから始まり、VEとVFの利点と欠点

日時：平成28年9月3日(土) 13時~18時
4日(日) 9時~15時半
会場：岐阜県立希望が丘こども医療福祉センター
テーマ：脳性まひ児の「食べること」への支援
講師：山川 眞千子先生
日本ボバース研究会インストラクター 言語聴覚士
虫明 千恵子先生
東京都立北療育医療センター 言語聴覚士
濱田 恵里子先生
西宮市立こども未来センター 言語聴覚士

1日目

- 9:45 任意研修「摂食嚥下の基礎知識」
講師：本研究会小児領域研修会 世話人スタッフ
- 13:00 **講義・演習** VTRによる事例観察
摂食嚥下運動の観察と確認
定型発達概論
脳性まひ児の食事の問題
評価およびプログラムの立案

2日目

- 9:00 **講義** 治療・支援の実際
- 実技①** 食事姿勢口腔コントロール与え方等
- 13:30 **実技②** 身体・姿勢のコントロールを体感する
まとめ

のお話や、頸部聴診法を實際食べながら行うことで、5つの期や舌骨と喉頭蓋の閉じの関係などメカニズムがわかりやすかった。

- ・口の中に入る前の先行期に目で認知しているか、咀嚼運動とマンチングなど咀嚼運動以外の口腔内処理、処理時間、など、見る視点が整理できた。
- ・お茶を斜め上を見て飲むとむせ、とろみをつけると口の中で広がらず飲みやすい。下顎の安定、BOSの大切さを感じた。
- ・発熱の回数の増えや、調子がすぐれないなど、経年変化を見ながら、姿勢と嚥下や成長スパークについても考え、就学へと引き継ごうと思った。



第19回学術講演会 中濃大会 27.11.13
テーマ 生涯の楽しみ・食・を支える



松尾浩一郎先生



三鬼達人先生



座長 林哲次大会長

《午前》特別講演① 「フレイル、サルコペニアを考慮した摂食嚥下障害への対応」
 講師 松尾浩一郎先生 藤田保健衛生大学医学部歯科 教授（歯科医師）
 《午前》特別講演② 「口腔ケアと摂食嚥下のチームアプローチ・上手な多職種連携の取り方」
 講師 三鬼達人先生 藤田保健衛生大学病院 看護長（看護師）

《午後》多職種連携ディスカッション



高田亜希子先生



安田和代先生



田宮久史先生



高田亜希子先生（岐阜県立岐阜希望が丘特別支援学校 コアティーチャー）
 安田和代先生（総合在宅医療クリニック 管理栄養士）
 田宮久史先生（久美愛厚生病院 言語聴覚士）



サンプル配布

スタッフ⇒



— 編集後記 —
 今年もご後援を頂きました 岐阜県、岐阜県医師会、岐阜県歯科医師会、岐阜県看護協会、岐阜県栄養士会、岐阜県理学療法士会、岐阜県作業療法士会、岐阜県言語聴覚士会、岐阜県診療放射線技師会、岐阜県身体障害者福祉施設協会、岐阜県歯科衛生士会、岐阜県デイサービスセンター協議会、岐阜県居宅介護支援事業協議会、岐阜県老人福祉施設協議会、岐阜県老人保健施設協議会様には深く感謝申し上げます。（TOYO）